



目次	説教 八日の後 現代の神学者紹介	…… 安彦 晴樹 …… 1
	第一回 シュライエルマッハー	…… 小林 宏和 …… 2
	新約聖書に聴く「主の祈り」(15)	…… 後藤 憲正 …… 3
	教会、この地とともに⑨ 森林公園教会	…… 児玉 直子 …… 4
	地域に生きる教会を目指して	…… 深山 純一 …… 5
	SDGsについて考える⑪（目標14）	…… 八田 牧人 …… 6
	環境問題に思うこと	…… 崔 晶治 …… 7
	次世代へのメッセージ⑫	…… 平山 春美 …… 7
	伝えられたものをまた伝えるために	…… 伊藤 悟 …… 8
	さんびかに生かされて 讃美歌312番と宝物	…… 伊藤 悟 …… 8
	こいのにあ 福岡筑紫野教会牧師就職式	…… 伊藤 悟 …… 8
	書評 問いかける信仰、問われる信仰	…… 伊藤 悟 …… 8
	－何をいかに継承するか	…… 伊藤 悟 …… 8
	教会ニュース	…… 伊藤 悟 …… 8

八日の後

わたしは、その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また、わたしの手をそのわきにさし入れてみなければ、決して信じない。

（ヨハネによる福音書20章25節 口語訳）

あ ひこ はる き
安彦 晴樹

トマスのこの一言で、他の弟子たちの心はえぐられ、傷ついたと感じます。

けれども、人を傷つける言葉を発したトマス自身にも、ズキズキとした痛みがいつまでも残ったでしょう。

その後、この日の集まりがどうなったか、聖書には全く記されておりませんが、トマスと弟子たちは、悶々と辛い日々を過ごしたでありましょう。

一日、二日、三日、四日…、主は忍耐の時、不安な気持ちで待ち続ける時を与えます。

私たちの信仰が養われ育てられるのは、案外こんな時なのかもしれません。主を待ち望むこの時を神が用いられます。そして八日が経ち、次の日曜日となりました。

「弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた」（26節）。ドアにはすべて鍵がかけられていたのに、主イエスは弟子たちの真ん中に入って来て、

そして言います。

「あなたがたに平和があるように」（26節）

冷たい雰囲気漂う部屋の中に、主の声が響きわたります。

「あなたがたに平和があるように」

弟子たちは、顔を上げ、声のする方を見つめたでしょう。

しかし主イエスは、すぐにトマスへ向き合います。私たちの救い主は、今一番、自分は駄目だ駄目だと思っている、その人を目指しておいでになって、そして言いました。

「あなたの指をここに持って来なさい。私の両手を見なさい」

「あなたの手を持って来て、私のわき腹の中に突っ込んでみなさい」（27節 岩波訳）

なんと型破りな言葉でしょう。それにしても、トマスが先週言い放った乱暴な言葉を、主イエスは間違いなく知っています。

そのことにトマスも弟子たちも、ドキッ！としたと思います。

「あなたの手を持って来て、私のわき腹の中に突っ込んでみなさい」

主イエスは、いいかげんな気持ちで、この言葉を仰せになったのではないでしょう。

トマスがこうしなければ信じないと言っている、そのとおりにしてごらん、納得できるまでやってみたら、本気で語っています。

主イエスはずっと祈ってきたに違いない。そうでなきゃ、こんなふうに体を張って言えません。頑な心、疑いの部屋の中に閉じ込めているトマス。その心の壁をバリバリと突き破って、主イエスは入っただけでなくなりました。

「あなたの指をここに持って来なさい…私のわき腹の中に突っ込んでみなさい」

「信じないままではいなくて、信じるものになりなさい」（27節 岩波訳）

そう言われたトマスの、心の扉が開きます。

「私の主よ、私の神よ」（28節 岩波訳）

主イエスの語りかけによって、心の奥底からトマスの信仰が引き出されます。

「私の主よ、私の神よ」

手の釘跡と、わき腹の傷に、直接触って確かめたから信じたのではないでしょう。

ここで注目したいのは、トマスが実際に触れたのかどうなのか、著者ヨハネが一言も記していないことです。そんなことはヨハネの眼中にはないのです。ここで最も重要なことは、主イエスの言葉です。信じられないと言う人に、すこしも惜しみなく、自分の全存在を差し出すイエスさま、この一点に、焦点があたっています。

「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」（28節）。頑な心を動かしたのは、咎めることも、見捨てることも決してなさらず、全存在を込めたイエスさまの言葉です。

「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」

（岡山伝道所伝道師）